

平成 21 年度学校体育振興事業
「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」
研究報告書

学校名	まつやましりつたかはまちゅうがっこう 松山市立高浜中学校
-----	---------------------------------

校長名： 楠本 雅人
所在地： 愛媛県松山市梅津寺町乙 52 番地
電話番号： 089-951-0475

なぎなたの指導に関する研究

I 研究実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

- ・ 社会総がかりで取り組む教育の推進
(家庭、地域、学校との連携)
- ・ 少子化への対応

2 学校の概要

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	2	2	2	2	8	
生徒数	男	26	23	18	2	69
	女	18	19	29	0	66

教員数 18 名 (保健体育科 1名)

武道・ダンスの授業の状況 (必要に応じて枠を追加)

領域: 武 道 領域の内容: 1, 2年 なぎなた 3年 剣道

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間	9	12	12	0	33	
担当教員数	2	2	2	0	6	
(外部指導者)	(1)	(1)	0	0	(2)	
生徒数	男	26	23	18	2	69
	女	18	19	29	0	66



II 研究の内容及び成果等

【研究成果の要点】

- 日本人として忘れてはならない「武道の心」を養う。
 - ・ 礼儀の大切さをアンケートに書いていた生徒が多く、礼儀への意識付けができた。
- なぎなたの基本動作を身に付けさせる。
 - ・ 1年生は、9時間という少ない指導回数であったが、最低限の基本動作は身に付いた。
 - ・ 指導者が有名な選手であったのが、生徒の意欲につながった。
- 学習成果を体育大会・文化祭で発表する。
 - ・ 発表の機会があることで、生徒は意欲的に取り組み、保護者や地域の方々にも好評であった。

1 研究主題等

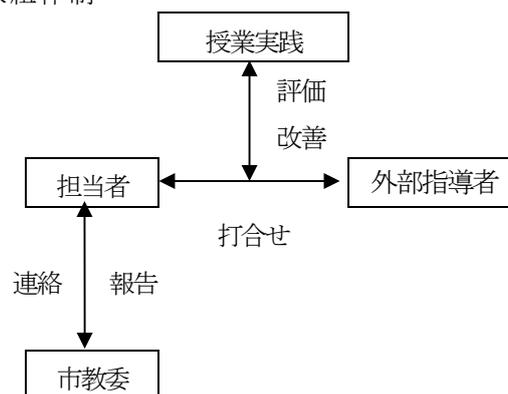
(1) 研究主題

「外部指導者と連携した武道指導のあり方」
～なぎなたの授業をとおして～

(2) 研究主題設定のねらい

- 日本人として忘れてはならない「武道の心」を養う。
- なぎなたの基本動作を身に付けさせる。
- 学習成果を体育大会・文化祭で発表する。

(3) 取組体制



(4) 主な取組

平成 21 年度	実施種目	なぎなた
	実施日程	H21. 9. 3 (木) ~ 11. 11 (水)
	実施回数	1年生 9回
		2年生 13回
	外部指導者	池見 敬子先生
担当教員	川口 裕一	

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 現状と課題

- ① 少子化の進行
- ② 部活動の精選

(2) 本事業活用による改善策

- ① 少子化への対応（個人種目）
- ② 中高連携に期待

(3) 武道外部指導者による指導等の概要

- ① 日本人として忘れてはならない「武道の心」を養う。
- ② なぎなたの基本動作を身に付けさせる。
- ③ 学習成果として体育大会・文化祭で基本動作や型を発表する。

(4) 生徒の実態

【あなたは、武道の経験がありますか】

1年生

ある	男子	9名	柔道1、相撲2、空手5・1、
11名	女子	2名	少林寺拳法1、合気道1
ない	男子	13名	
26名	女子	13名	

2年生

ある	男子	9名	柔道1、相撲3、空手3
11名	女子	2名	剣道2・2
ない	男子	14名	
31名	女子	17名	

(5) 活動計画

1年生（9時間）

時間	内容
1～3	座礼、立礼、自然体、中段の構え、体さばき 等
4～6	上・下段の構え、脇構え、八相の構え 等 演技発表練習
7	演技発表
8～9	基本動作の復習

2年生（13時間）

時間	内容
1～7	基本動作の復習 体さばき、各構え等 リズムなぎなたの練習

8～11	演技発表の練習
12	演技発表
13	演技発表反省

(6) 実践内容

1年生





2年生（体育大会での演技）



(7) アンケート結果

4 大変思う 3 そう思う

2 あまり思わない 1 全く思わない

* 2年生の1年は1年時のアンケート結果

問1 なぎなたの授業に興味・関心がある。

	1年生	2年生	
		1年	2年
4	10	16	7
3	27	19	22
2	3	7	11
1	0	0	0

問2 なぎなたの授業は楽しい。

	1年生	2年生	
		1年	2年
4	13	15	8
3	24	23	21
2	3	3	11
1	0	1	0

問3 なぎなたの授業が待ち遠しい。

	1年生	2年生	
		1年	2年
4	10	16	7
3	27	19	22
2	3	7	11
1	0	0	0

問4 なぎなたの技は難しい。

	1年生	2年生	
		1年	2年
4	20	20	10
3	15	15	24
2	4	6	3
1	1	1	3

問5 授業で声を出すのが恥ずかしい。

	1年生	2年生	
		1年	2年
4	5	3	1
3	17	18	11
2	12	14	18
1	6	7	10

問6 体育大会・文化祭での発表は良かった。

	1年生	2年生	
		1年	2年
4	15	12	20
3	23	22	18
2	2	6	2
1	0	2	0

問7 先生は優しい。

	1年生	2年生	
		1年	2年
4	18	19	13
3	18	21	21
2	4	3	6
1	0	0	0

問8 先生の教え方はよく分かる。

	1年生	2年生	
		1年	2年
4	21	24	13
3	16	17	24
2	3	1	3
1	6	1	0

問9 なぎなたを将来(高校等)も続けたい。

	1年生	2年生	
		1年	2年
4	1	2	1
3	9	6	6
2	26	27	19
1	4	7	14

(8) アンケート結果より

- 授業への興味・関心は高い。
- 授業が楽しいと思っている生徒が多い。
- 体育大会や文化祭での発表は良かったと思っている。
- 指導者に良い印象を持っている。
- ▼ 技は難しいと思っている生徒が多い。
- ▼ 女子は、声を出すのが恥ずかしい生徒が多い。

△ 将来(高校等)で続けたい生徒は少ない。

(9) 成果(アンケートの自由記述からの考察も含む)

- 日本人として忘れてはならない「武道の心」を養う。
 - ・ 礼儀の大切さをアンケートに書いていた生徒が多く、礼儀への意識付けができた。
- なぎなたの基本動作を身に付けさせる。
 - ・ 1年生は、9時間という少ない指導回数であったが、最低限の基本動作は身に付いた。
 - ・ 外部指導者が有名な選手であったのが、生徒の意欲につながった
- 学習成果として体育大会・文化祭で基本動作や形を発表する。
 - ・ 生徒は、意欲的に取り組み、保護者や地域の方々にも大変好評であった。

3 研究成果の普及

- 松山市中学校体育主任会で研究成果を発表した。
- 松山市地域連携指導推進協力者会議で研究成果を発表した。
- PTA講習会でなぎなたを実施した。
 - 今後も、学校内だけでなく、他校や地域で研究成果を発表する機会を多くとりたい。

4 今後の展望

- 授業(教育課程)や部活動、社会体育等における「なぎなた」の位置づけ。
- 評価規準の設定・改善
- 指導者の確保
- 教員の研修
 - 今後は、特に評価規準の設定・改善に取り組んでいきたい。